

## 15. ウドの主芽・伏芽利用を利用した「改良株分け法」による大量増殖技術

福島県農業試験場野菜部・平成11年度春夏作試験成績概要

1 部門名 野菜－ウド－繁殖・育苗

03－30－02060000

2 担当者 服部 実

3 要 旨

ウドの増殖法としては古くから主芽を利用した株分けが行われてきたが、その増殖率は4～5倍と低い。増殖率の向上を図るため、主芽と同時に伏芽も利用する改良株分け法を新たに考案し、その技術を確立した。

(1) 40日程度粗がらに伏せ込んだウドの根株を主芽部及び伏芽部に分割し、黒土＋くん炭(10%)を充填したポリポットに埋設し、無加温ハウス内の温床(20℃)で育苗することで増殖用の苗が得られる。その際、株分けの時期は3月中旬までとし、使用するポリポットの直径は7.5cm以上とする。

(2) 本圃への定植は5月中旬に行う。1年で従来の株分け法と同等の根株を得ることができる。

(3) 一つの根株から普通主芽が6～7個、伏芽が5～6個得られ、また、本法による成苗率が90%程度であることから、本法の増殖倍率は10～11倍と推定される。